《学校評価シート１》
平成２７年度

学校名	県立ゆり養護学校道川分教室	評価領域	研究・学習指導

重点目標	コミュニケーションの深まりを目指した授業づくり ～４つの観点を大切にした支援の在り方～	P
現　　状	・児童生徒は、様々な思いをもち、周囲からの働きかけに心を動かしている。しかし、そこで生じた思いを周囲の人が分かるように伝えることが難しく、受け取る側の教師も読み取りに難しさを感じざるをえないことがある。そこで、教師は児童生徒をよく観察し、その微細な動きを見逃さないように心がけ、思いを受け止め応じることを繰り返しながら、気持ちを共有し合うことを積み重ねてきた。 ・これまで分教室の授業づくりにおいては、児童生徒が主体的に活動するためには分かりやすい状況づくりを工夫することが必要だと考え、４つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を大切にして取り組んできた。昨年度は個別学習を取り上げ、教材・教具に焦点をあて一人一人の実態に応じた工夫・改善を通して、豊かな表現を引き出したり、身近な人とのやり取りを深めたり、自分から関わろうとする力などを育てたりしてきた。	
具体的な目標	○４つの観点を大切にした授業実践を通して、児童生徒が周囲の人と安心・安定した関係を作ったり、コミュニケーションを深めたりすることができるようにする。 ・学校評価の領域「学習指導」を平均評価点3.00（満点4.00）以上にする。	
目標達成のための方策	①授業づくり ・「朝の活動・朝の会」を検証場面とし、各グループで年間目標や構成、指導内容等について話し合う授業づくり検討会を実施。 ・公開授業研究会、校内授業研究会を実施。 ・４つの観点を大切にした授業評価記録用紙を作成・活用。 ②ケース検討会 ・児童生徒一人一人のケース検討会を実施。 ③自立活動学習会及び教材・教具研修 ・校内外の人材を活用し､自立活動や教材・教具に関する研修を実施。	
具体的な取組状況	①授業づくり ・研究対象の「朝の活動・朝の会」の授業づくりを目的に、学習グループごとに年３回の授業づくり検討会を実施。 ・７月に外部講師を招聘し公開授業研究会・研修会を開催。県内外の特別支援学校教員９名参加。 ・11月に特別支援教育課指導主事を招いて校内授業研究会を実施。本校教員３名参加。 ②ケース検討会 ・児童生徒一人につき、年３回のケース検討会を実施。 １回目（５月）～個別の指導計画を基に児童生徒の実態、目標及びコミュニケーションが深まった姿について共通理解。 ２回目（９月）～中間評価を行い、これまでの支援が適切であったかを検証することで、成果・課題から改善点を明確化。 ３回目（２月）～児童生徒の様子や変容を基に評価・確認し、次年度に向けての方向性について検討。	D

	③自立活動学習会及び教材・教具研修会 ・特別支援学校教育専門監等を活用して自立活動研修会を13回実施。 ・秋田県立大学准教授を講師に、教材・教具研修会を２回実施。	
達成状況	①授業づくりに関しては、授業づくり検討会後、全体の場で報告をする機会を設け、各グループの取組を全体で共通理解した。また、ケース検討会を事前に行うことで、児童生徒の実態や課題、コミュニケーションの深まった姿を多様な観点から捉え、一人一人の変容を共通理解しながら授業づくりを進めることができた。その結果、全職員が気持ちを一つにして授業に臨むことができ、児童生徒同士のつながりやコミュニケーションの深まりにつなげることができた。 ①公開授業研究会・研修会等では、外部専門家や他校教員を交え、より専門的に多角的に指導内容・方法等を検討することで、授業改善につなげることができた。また「道川分教室版」の授業実践チェックリストや授業評価記録用紙の様式、活用方法等についても具体的な意見をもらうことができた。 ②ケース検討会では、個別の指導計画を活用しながら、目標や手立て及び評価、支援の在り方について共通理解を図ることができた。また、話し合いの内容や確認できた成果を効果的に生かせるよう、参加する構成メンバーを工夫し、授業づくり検討会と連動させた。 ③校内外の人材を活用して自立活動学習会や教材・教具研修会を実施したことで、専門性の向上と授業づくりに役立てることができた。	

自己評価 （評価） Ａ	（根拠） ・評価領域「学習指導」の平均評価点は3.31で、中間評価3.24を上回った。また、評価項目「教育課程や指導内容、指導方法、教材・教具は児童生徒のニーズに合っている（3.00→3.21）」「児童生徒は学校生活を楽しみ、満足している（3.21→3.50）」の平均評価点が、中間評価と比較して大きく伸びた。 ・今後も、４つの観点を大切にしながら、児童生徒の発信を受け止め、その思いに寄り添う丁寧な授業づくりを進め、個別学習、集団学習で培われてきたコミュニケーションの深まりを大切にしながら支援に当たっていきたい。卒業後の豊かな生活につながるコミュニケーション力だけではなく、誰かと関わって楽しいと思えるような気持ちや感情などの「心」を育てるための取組を積み重ねていきたい。	Ｃ
学校関係者評価と意見 （評価） Ａ	（意見） ・学校評議委員会において、「職員一丸となっての努力が感じられる」「学校の目標とするものが具体的に実践されている」「充実した教育活動が地域の中で展開されていくことを今後も期待したい」などの意見をいただいた。 ・病院関係者アンケートでは、評価領域「分教室運営」の平均評価点が3.81で、「教育方針・運営計画の説明」「学習活動や学校行事に関する連絡・調整・情報交換」等が適切に進められているとの高い評価を得られた。また、保護者アンケートでは、評価領域「学習指導」の平均評価点が3.83であった。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○より良い授業づくりや指導力・専門性の向上のために ・ケース検討会（複数の目で行う的確な実態把握）・授業づくり検討会の継続実施 ・「道川分教室版」授業デザインチェックリスト・授業実践チェックリスト・評価記録用紙の活用 ・外部人材を活用した公開授業研究会及び研修会の開催（情報発信） ・学習会や研修会、研修報告会の内容・方法等の充実 ・県内外特別支援学校の公開授業研究会及び研修会への相互参加	Ａ